

絵和紙



おりおりの記

城（その美しくも興味深いもの）

SMBC日興証券
代表取締役社長

清水 喜彦

私が最初に城に興味を持ったのは、小学校高学年の頃です。地元甲府駅前の一條小山に舞鶴城と言う城跡があり、4月の信玄公祭りで小学生による剣道の野試合に参加し、城を間近で目にしました。当時、舞鶴城は、故郷の英雄である武田信玄公が造った城だとばかり思っていました。父親の書棚や図書館にある時代小説で「信玄公は地元で城を造らなかった。」と読み、不思議に思い調べ始めたのが城に興味を持ったきっかけでした。

その後、これは、「人は石垣、人は城」があまりに有名な為の誤解であり、信玄公が地元甲斐国に全く築城していなかった訳ではないことが判りました。

ちなみに、舞鶴城は秀吉公の命で浅野長政が完成させ、後に徳川氏、柳沢吉保親子が治めた後、幕府直轄領として甲府勤番支配を経て明治を迎えます。

小学生の時の遠足コースが、武田信虎、信玄親子の本居である躑躅ヶ崎館（現武田神社）の北方にある詰め城の要害山城でした。この城跡は山頂にあり、山頂からの眺めと弁当を食べた記憶が残っています。

中学生になり城の歴史や形式が理解できるようになって初めて本格的に城にのめり込みました。中学校二年生の夏、憧れの姫路城をどうしても見たくて一人で甲府から姫路まで行きました。

素晴らしい連結天守は勿論、初めての一人旅は思

い出たっぶりの経験になりました。それからは各地の城跡廻りと資料の収集が趣味です。大学の夏休みは車で日本を一周し数多くの城跡を見て廻りました。



城の楽しみ方は人により千差万別でしょうが、私は経始（縄張り）を考えながら当時に思いを馳せる事が大好きです。一方で、普請（土木工事）や作事（建築）にも興味を惹かれています。守り重視から統治中心へ、攻城兵器の発達に伴う築城形式、技術の変化。これも非常に興味深い歴史です。素材、技術の変化が築城目的の変化と相まってそれぞれの城の特徴や趣をもたらしているのが何とも言えず大好きな点です。

これから城に興味を持って頂ける方には、是非現存する十二の天守を見て頂きたいと思います。

あくまでも個人的な嗜好ですが、雪の松本、桜の弘前、秋晴れの丸亀、何時見ても姫路、これらの各天守閣を楽しんで頂き、少しでも城に興味を持って頂けたら幸いです。